

# ゴミ 30 レポート

第46号 2008年3月31日 発行

編集と発行 530運動環境協議会  
〔豊橋市今橋町1番地 豊橋市役所環境政策課内 電話(0532)61-2414〕  
〔URL <http://www.530.toyohashi.aichi.jp> E-mail 530@city.toyohashi.lg.jp〕



汐川干潟クリーンアップ

530運動環境協議会では11月4日に汐川干潟のクリーンアップを田原市と合同で行いました。汐川干潟は豊橋市と田原市にかかり、田原湾の奥に位置します。干潟にはカニや貝、ゴカイなどの多くの生物が生息し、毎年多くの渡り鳥が飛来しています。その昔には魚やアサリがとれ、海苔の養殖が行われたりと、人々の生活の場であったそうです。今回、初めての取り組みでしたが干潟にはペットボトルや発泡スチロール、空缶など沢山のごみが打ち上げられていました。中には外国の言葉が書かれたものもありました。

この日、豊橋・田原市共、地元住民や学校、また本協議会会員など多くの方の参加により、4トントラック5台分のごみが集まりました。また愛知県産業廃棄物協会の協力によりごみの処理が行われました。

地域を越えたこの取り組みが530の輪を広げてゆくことを願っています。

## 530会員募集のお知らせ

530運動環境協議会は、環境美化活動から省資源・省エネルギー、循環型社会の推進、環境教育など、今後も様々な取り組みを行い、ゴミゼロ社会を目指します。本協議会では活動に参加・協力していただく会員を募集いたしております。法人・団体会員は1口1万円、個人会員は1口500円、いずれも年間費で1口以上です。申し込みは協議会事務局窓口のほか、ホームページからできます。

## 目次

省エネライフを始めよう .....	2
世界のごみ事情 .....	2
No!包装キャンペーン .....	3
会員紹介コーナー .....	4
編集後記 .....	4



## 省エネライフを始めよう

1973年10月に勃発した第4次中東戦争を契機に発生した第一次石油ショックは我が国にとって未曾有の経験でした。社会は大混乱になり政府も対応に苦慮しました。

11月16日の閣議では、「石油緊急対策要綱」を決定し、ネオンの点灯自粛、日曜ドライブの自粛、高速道路での低速運転、暖房や電気器具の使用合理化などを呼びかけました。こうしたエネルギー供給支障への不安は様々な方面に影響を与えました。国民生活面では、トイレトーパーや洗剤をはじめとする様々な生活用品が不足するとの懸念から、消費者がスーパーなどに殺到して買いだめをするもの不足パニックが起き、けが人まで出るような事態になったスーパーまでありました。運輸業では、長距離トラックの場合、他府県での燃料補給が困難になり、操業に支障を来す事態も発生しました。タクシー業界では、燃料を求めてLPガスステーションに長蛇の列を作り、休日の操業を取りやめるタクシー会社もありました。航空会社でも燃料調達ができないため、国際線を中心に欠航が相次ぎました。農業では、ハウス栽培を行っている農家では温度設定を下げたり、ハウスの多層化を行いました。また、地方の産地ではトラックの手配ができず関東などの大消費地に輸送する生産物が滞貨しました。漁業では、遠洋漁業に出た漁船が海外寄港地での給油を断られる事態が発生し、急遽タンカーと燃料を手配してハワイ沖やインド洋で操業する漁船に給油を行いました。マスコミ業界では、テレビやラジオで深夜放送を取りやめたほか、新聞や雑誌ではページ数を減らしました。

[ 以上、平成18年度エネルギーに関する年次報告(エネルギー白書2007)より引用 ]

530運動環境協議会は、2008年2月1日(金)早朝、省エネルギー月間街頭啓発として、暖房温度を控え省エネを実践していただくため、ひざ掛け1,000枚を豊橋駅ペディストリアンデッキで配布しました。

上記(エネルギー白書2007)によれば第一次石油ショック以降、官民を挙げて省エネルギーや石油代替エネルギーの導入に取り組んできたことにより、日本は世界に冠たる省エネルギー国家になっているそうです。しかし、日本のエネルギー自給率は2004年でわずか4%であり、エネルギーと表裏一体である地球温暖化問題を考えれば一人ひとりの環境に対する取り組みが大変重要です。

## 世界のごみ事情

私たちは今当たり前のごみを分別して捨てています。豊橋でごみの分別が始まったのは昭和21年でした。始まった当時は可燃物・不燃物の2分別でその後1つずつ分別の数が増えて行き、平成15年には現在の7分別になりました。ごみの処理では、ビン・缶類やプラスチック類、古紙布類、といったものはリサイクルし、焼却するものについても、焼却で発生する有害なガスも除去され、残った灰を溶かしスラグ化するなど高い技術により支えられています。平成18年度に一般家庭から収集したごみは約9.75万トンで、埋め立てられたのはそのうち約1.5%でした。



では、世界の他の国ではどのようにしているのでしょうか。中国では一年に約1.4~1.5億トンのごみが集められ、毎年4~5%増加しています。このごみのうち70%が埋め立てられほとんどの地域で分別がないそうです。ここ数年で分別を進めているようですがまだ浸透しておらず色々な物が混ざったごみを収集しているそうです。

米国では2.46億トンの家庭ごみが集められ、そのうち50%が埋め立てられています。州によって分別は異なりますがグアム州では有害ごみなど一部を除き、ごみの分別はありません。しかし米国全体としてはリサイクルは進み、廃棄物のリサイクル率は32%に達しています。

ブラジルでは一部都市部の自治体によっては可燃物・不燃物といった分別を始めている所も有りますが、ほとんどが分別が無いそうです。集められたごみも埋め立てられているそうです。

国によって埋め立てる土地の問題や焼却する技術、リサイクルする技術は異なり、様々な処理方法や分別が行われています。しかしごみを分別するという点では、出す人がその手で分けるため、結局は個々の環境への高い意識が必要です。

今豊橋には仕事や就学のため約2万人の外国人が暮らしています。しかし分別について行けず、そのまま出してしまうなど問題も生じているようです。今年環境教育で訪れたブラジル人学校では普段から分別ごみ箱を用意し、分別して捨てていました。分別はプラスチック、缶、ペットボトル、紙類の4種類で授業の中でも教えているそうです。先生の話ではブラジルから来たばかりの生徒はどうして分けるか分からず、授業で習ったり友達から教えることで理解してゆくそうです。

帰り際、教室に置かれた分別ごみ箱に子供がきちんと分けて捨てていました。少しずつですが分別の意識が生まれ始めています。





# No! 包装キャンペーンを実施しました

530運動では2月を「No! 包装キャンペーン」月間として、買物時における過剰包装やレジ袋の削減を呼び掛けてきました。

レジ袋は、日本中で1年間におよそ305億枚使用されており、一人で使うレジ袋は年間約300枚になるそうです。また、1枚あたり(製造と廃棄)で約60gのCO<sub>2</sub>が排出され、日本国内(年間)で約183万tになります。これは、家庭内で発生するCO<sub>2</sub>は5,500kg/年といわれているため、豊橋の総世帯が排出するCO<sub>2</sub>の2年数か月分にあたります。

今回のキャンペーンでは、ごみ減量のアイデアを「エコな買物部門」と「エコクッキング部門」と2部門に分けて募集し、また、各家庭で省エネに取り組んでいただく「CO<sub>2</sub>を減らそう! 省エネ実施キャンペーン」を行いました。アイデア募集には全部で334のアイデアをいただきました。省エネ実施では145の家庭の方に参加していただき、そのうち69%の家庭が簡易包装の物を選び、マイバッグを持参していると答えました。



アイデア募集では各賞を決定し、優秀賞には省エネ電気ポットをはじめ応募者全員にレジ袋不要のトートバッグをお贈りしました。省エネ実施では応募者抽選の上100名様に省エネエコタップをお贈りしました。各賞入賞者作品、集計結果は下記のとおりです。

参考: レジ袋に係る統計数字は、全国地球温暖化防止活動推進センターから引用

## エコな買物部門

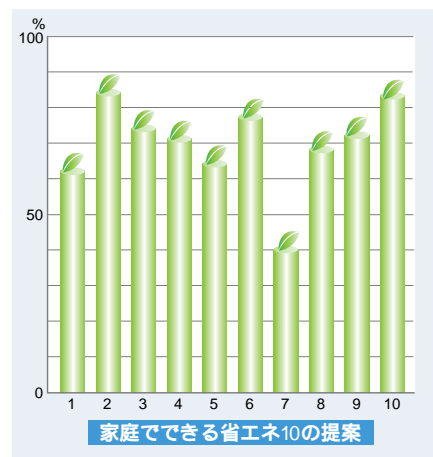
優秀賞	齋藤美紀	頻繁に買物へ行くとき余分なものまで欲しくなってしまうので、買物へ行く曜日を決め、買物に行くまでに食材を使い切るよう、ある物でメニューを考える。
入選	渡辺志乃	調味料や、シャンプー、洗剤などは詰め替え用のあるものを買って、容器の再利用をしている。
"	神谷 遥	米を買いに行くとき空になった米袋を持って行き米を入れてもらう。
"	國嶋沙樹	地元で作ったものでなるべく包装のされていないものを食べる分だけ買う。
佳作	加藤千夏	買物には本当に必要な物だけをあらかじめメモに書いて行き、買う物を最小限に抑える。
"	神藤菜里奈	日用品は同じ物を使い、詰め替え用を買ってプラスチック容器の無駄を省いている。
"	吉村枝折	どんな買物にも対応できるように特大サイズのバッグに収納できる、レギュラーサイズ、保冷バックの3点を持って行き、大量に買う時、重い物を買うときは丈夫で大きなバックやキャリアカーも使う。
"	夏目和之	買物に行くとき買う物をメモに書いて、必要のない物を買わないようにする。
"	北河えみこ	買物は冷蔵庫の中のものが増えてから行く。

## エコクッキング部門

優秀賞	渡辺 亨	大根の皮をキンピラにし、カブの葉は漬物に、ブロッコリーの茎は茹でたりして、野菜の葉や皮も食べている。
入選	三浦杏佳	大根の葉は菜飯や油炒め、皮はキンピラにして一本丸ごと使い切るようにしている。
"	大河まり子	ブロッコリーの軸、キャベツの芯、人参・リンゴの皮をフードプロセッサで細かくして鍋で炒め、水・砂糖・合わせ味噌・コチジャンを加えて混ぜ合わせ、煮つけて野菜みそを作る。
"	対馬恵子	お茶がらや、使った後のダシパックの中身を乾燥させ、フライパンで炒り、かつおぶし、白ゴマを加え、みりん、だししょうゆで味付けしてふりかけにする。
佳作	吉見享大	料理時に出てくるキャベツの芯や人参・大根の皮などの野菜くずを冷蔵し、保存しておきスープのダシに使う。
"	小林弘美	野菜の皮は栄養価が高いこともあり、ほとんどむかずに調理するようにしている。
"	松本善文	煮物は朝5分位煮て夕方まで保温鍋でじっくり保温し、残った煮汁は混ぜご飯、みそ汁に再利用。
"	鈴木美香	人参、じゃがいも、ごぼうなどはしっかり洗い、皮をむかずに料理する。
"	中村健太	料理は多く作らないようにして、食卓に並べられた物はできるだけ全部食べる。

## 省エネ実施

家庭でできる省エネ10の提案 (3人家族が1年間実施した場合 CO <sub>2</sub> 削減量 / 節約額; JCCCA, ECCJ より)		実施率
1. 家電製品を使わない時にコンセントを抜くと(60kg / 3,400円)		60%
2. 冷房の温度を1 高く、暖房の温度を1 低く設定すると(33kg / 1,800円)		82%
3. ポットやジャーの保温を止めると(34kg / 1,900円)		72%
4. 冷蔵庫を整理し、ものを詰め込み過ぎないようにすると(18kg / 1,000円)		70%
5. シャワーを1人1日1分減らすと(69kg / 7,100円)		63%
6. 風呂の残り湯を洗濯に使いまわすと(7kg / 4,200円)		76%
7. 通勤などで週2日往復8kmの車の運転をやめると(184kg / 9,200円)		39%
8. 1日5分間のアイドリングストップを行うと(39kg / 1,900円)		66%
9. 買い物袋を持ち歩き、簡易包装の物を選ぶと(58kg)		69%
10. 家族団らんし、暖房と照明の利用を20%削減すると(238kg / 10,400円)		81%



実施率 = 実施家庭数 ÷ 参加家庭数 × 100



# 会員紹介コーナー

今回は事業所で地域清掃や独自の取り組みを行っている2つの団体を紹介します。

## 「ありがとう！海・人・故郷」の 気持ちを第一に！ ヤマサちくわ株式会社

ヤマサちくわは、豊橋の地を中心にちくわ等の練り物を製造・販売してまいりました。私たちを見守り、育てていただいた地域の皆さまへの感謝の気持ちを忘れず、これからも共に歩んでいこうと、地域に密着した活動に力を注いでいます。

創業170年を迎えた平成9年より、「海に感謝、人に感謝」のスローガンの基、毎年定期的に全社で、表浜の海岸清掃を実施しています。創業当時の原料魚の主漁場であり、片浜十三里といわれた表浜地区の海岸清掃活動を通して、私たちの重要な原料である魚を育む「海」の大切さを再認識し、環境保全意識の高揚を図っています。

530運動にも全社で積極的に参加し、本社や直営店周辺地域の空き缶やごみ拾い、草刈り等の清掃活動を行っています。毎日のごみ処理では、少しでも量を減らすことはもちろんですが、分別表に従ってきちんと分別すること、ごみ袋に職場名・責任者名を記入して出すように指導しています。また、昭和47年より稼働している排水処理施設では、工場排水の浄化処理が行われ、回収した残渣固形物と生ごみは混合・堆肥化され、農家に提供され喜ばれています。

今後も、かけがえのない豊橋の町・わが故郷への感謝の気持ちを第一に、530運動に積極的に取り組んでまいります。



## 「不法投棄物撤去作業10年突破！」

### （社）愛知県産業廃棄物協会東三河支部

社団法人愛知県産業廃棄物協会東三河支部（以下東三河支部とする）は、愛知県に平成3年7月、産業廃棄物の適正処理の徹底、並びに再生利用の推進に取り組む愛知県下の産業廃棄物処理業者を核に公益法人として発足した社団法人愛知県産業廃棄物協会（以下協会とする）に所属する、団体です。

県下では名古屋・尾張西・尾張北・尾張南・西三河そして東三河と6支部あり、会員間の協調や協会との連携をより深め、地域の実情に即した自主的な事業を図り、業界の社会的使命達成にむけて積極的に取り組んでいます。（詳細は<http://www.aisankyou.com/>）

さて、東三河支部は現在正会員72社、賛助会員9社と合計81社の会員で構成されています。毎年、通常総会において前年度の事業報告や事業計画案が出され、支部会員が一致団結して計画に基づいた事業活動を実施しています。

そのなかでも毎年6月県下一斉に実施される協会事業の不法投棄防止パトロールでは東三河全域を6ブロックに分け、担当者を明確にし、行政への報告も含めて迅速かつ正確に取り組んでいます。そして発見された不法投棄現場においては所轄の地方自治体等と協力し、その年の11月頃に特殊車両等を用いて大掛かりな不法投棄物撤去作業を実施しています。この作業は地元住民や子供達と行政の方々も含め総勢150名以上で実施し10年以上継続しています。

また、東三河支部会員の育成のために法令講習会や施設見学会等を開催するとともに、平成18年度からは行政懇談会も取り入れて、東三河の環境保全が更なる発展に繋がるよう日々、積極果敢な活動をしています。



**編集後記** 530の担当になって3年が終わろうとしています。年2回の530運動実践活動から年4回の駅前清掃、職員の530、他都市や団体とタイアップした干潟や河川の清掃。その中で多くのボランティアで清掃する方に出会いました。ごみを拾うことは決して楽ではありません。それでも休みの日に朝早くから集まり、まちをきれいにするために拾っている方が沢山います。そんな方に出会ったときこが530のまち豊橋であることを強く認識しました。まだ自分が小中学生だった頃、530運動としてごみを拾った事を覚えています。そして今、新たな取り組みとして市内の幼・保育園での環境教育訪問授業を行っています。教えていることは「ごみにしない」こと。この取り組みが将来新たな530のまち豊橋に繋がることを期待しています。